

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104998		
法人名	(株)エス・エッチ・メデカル		
事業所名	グループホーム かえで(1階)		
所在地	岡山市 南区 松浜町7-34		
自己評価作成日	平成24年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370104998&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成24年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、職員全員が目標管理シートを作成し、個々に目標を掲げ、達成できるよう努めています。特に、内部研修や外部研修に積極的に参加することで、職員のモチベーションを上げ、ケアの質の向上につなげています。利用者様が、安心して暮らせるよう、自己のないよう寄り添うケアを提供するため、ご家族と相談しながら、話し合いや各ユニットでの密なカンファレンスをおこなっており、その結果大きな事故もなく、利用者全員が日々穏やかに安心して暮らしていただけていると思います。大きな柱として、運営推進会議をきっかけに地域とのつながりを大切に今までより積極的に交流や働きかけをおこないました。町内会長や児童部の役員さんに協力を頂き、独り暮らしの家を訪問したり、ホームの行事への参加をお願いし、たくさんの参加があり楽しく交流することができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「かえで」が開設されてはや9年と言う。来年度は「振り返り・新しい出発の為の「十周年記念」を考えている。「個々の能力を活かした温かいケア」の理念をオープン以来堂々と守り続け、とりわけ大きな問題もなくその日が迎えられるのは、全職員が心一つにして地道な努力を積み重ねてきたからだろう。さらに強く感じられるのは(株)エス・エッチ・メディカルの利用者のみならず、職員を大切に育てる姿勢や個々の尊重の実践が、今日の「かえで」をしっかりと下支えているということだ。法人グループで実施し続けている「改善コンクール」の効果も大きい。このホームは何事に対しても真摯に向き合い、向上心は格段に強い。今まで十分取り組めなかった課題を取り上げた今回の「改善コンクール」の発表も期待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個々の能力を生かした温かいケア」の理念を職員一同共有し、個々にも、また施設全体としても実践につなげている。状態に応じ、ご家族と相談しながら随時カンファレンスをおこなっている。	理念はホームの玄関や事務所に掲示し、常に意識すると同時に、理念を具体化した小目標を設定し、区切りで評価し合うと言った仕組みがきちっと出来ている。その成果は着実に目に見えてきている。職員個別の「目標管理シート」の作成も良い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議をきっかけに、地域の一員として交流ができるよう行事などの時には地域に声をかけている。	以前から課題としてきた「地域交流」を今年度の改善コンクールのテーマに取り上げ、担当者を中心に一歩も二歩も前進している。例えばホームの行事への地域の人の参加が、あの手この手の工夫で増加したり、参加者へのアンケートも実施して、交流の絆を把握できた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事参加などでの交流を通じて、認知症の人の理解を得る努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をきっかけに地域の方々と互いに意見を交換し、サービス向上に活かしている。	昨年度の目標計画にも組み入れたり、改善コンクールの担当者が積極的にこの会へ参加して地域の方々と話し合う等、以前より良い運営推進会議となっている。会議録からも親密な交流の雰囲気良く伝わってくる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から、わからないことを相談・報告したり、運営推進会議への参加を促すようにして協力関係を築くように努めている。	運営推進会議への参加は、ホーム側は参加をお願いし続けているが、市の担当者の出席は今のところない。但し日常的には指導や助言を得たり、地域包括支援センターの職員とは良い協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、内部研修をおこない、身体拘束をしないケアに努めている。	グループホームとしては珍しく自動ドアで、玄関に立つと「いつでも、どうぞ」という雰囲気がある。もちろん、禁止の対象となるような事例は全く見当たらないが、虐待防止も含めて研修を重ね、身体や心理的拘束につながる事の無いようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師を迎えた勉強会に参加したり、認知症介護実践者研修などで虐待について学ぶことで虐待が見過ごされることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や勉強会などで、学ぶ機会を持つよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族に十分理解していただけるよう書面にて説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス委員のメンバーを中心にご家族へ向けてアンケートを作成し、要望を聞いたうえで話し合いを行い、業務に反映できるよう努めている。	利用者・家族共に日頃から職員は良く耳を傾け、意見や要望に気付き実践するようよく努力している。家族会や運営推進会議に家族はよく参加しており、毎年実施している家族アンケートに対しても、きちんと向き合い役立っている。	本人や家族の意見や希望をしっかりと聞き、よく受け入れてホームの運営やサービス向上に役立てたいという意欲は十分伝わってくるが、未だ活用不十分だったり、取り組む余地が残されていると思うので、更に何が出来るかよく話し合っ欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月話し合いをおこない、経験年数別の研修会をしたり職場満足度アンケートをとることで、職員の意見や提案を聞く機会を設け、一緒に検討している。	数多くのホームに入らせてもらっているが、代表者がこれほど高い意識を持って職員から意見を聞き運営に反映させようと努力している例はあまり見られない。「職場アンケート」の調査内容や、良い事をお互い評価し合う「サンクスカード」からその状況をよく伺うことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「ありがとうの箱」を設置したり、目標管理シートを作成することで、個々が努力しながらやりがいを感ずってもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるよう努めている。また、資格取得のための勉強会の開催や助成をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度の同業者との意見交換会や、グループホーム協会の研修などへの参加を通して、職員の質を向上させる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のオリエンテーションで、これまでの暮らしぶりや習慣を可能な限り把握し、サービス導入時に職員が共有できるようにしている。暫くは本人の思いをしっかりと理解するために細かな情報を日々職員同士で交換している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のオリエンテーションで、ご家族より困っている事、心配ごとを伺い、安心して入居していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に自宅への訪問や、オリエンテーションで本人と家族の話を管理者が、しっかりと聞く事で何が必要とされているか見極める。当方で出来る支援について、十分に伝えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ること、できない事の見極めを十分に行い、小さなことでも出来る事への不要な手出しはしないよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時には、必ず報告、相談し、情報を共有することで、ご家族と共に支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達などと交流していただいたり、外出を行っていただくことでなじみの関係が途切れないよう努めている。	使い続けている化粧品を買いに行きたいという希望に職員が同行したり、行きつけの美容院に嫁さんと一緒に行ってもらう等、家族にも場合によっては協力してもらいながら、本人の願いを一つでも実現しようとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりが持てるよう、職員が間に入り誘導・支援を行うような場面作りを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から相談があった際はアドバイス等を行い、可能な限り支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の何気ない言動や表情を気に留め、細かく記録し、入居者の気持ちに寄り添い、出来るだけご本人の意向に添った生活が出来るように努めている。	「〇〇の宝くじ売り場がよく当るんで…」のAさんの訴えに職員がお供した話を聞いたが、以前掲げた「しっかり耳をそば立てて思いを聞こう」という目標は今も引き継がれている。ある職員のアンテナが何か気付いたら、直ぐに「どうしよう」と職員間で相談している所が良い。	外出支援や馴染みの関係継続の項目も含めて「一日一人でも良いので何か一つ希望を聞き出し、できたら実現させよう」等の目標設定と、実現出来たら利用者も一緒に喜び合える工夫ができると楽しいと思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に「生活シート」を記入してもらい、より詳細に把握できるよう工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の悪そうな時には、休んでいただく。調子の良さそうなときにはお手伝い等をしていただくなど、日々の状態を見て、生活していただくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご本人の行動や言動などから、ご本人の望む生活をしていただける様、又ご家族の意向を反映し、介護計画を作成している。	昨年の改善コンクールはこのホームの発表で評価されたケア記録は、確実に職員の気付きを喚起させたり、その人の思いを共有することができて、より良いケアプランにつながっていると思う。この様な地味な努力の積み重ねが役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫している事をこまめに記録し、職員間で情報を共有し、介護計画に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご要望に出来るだけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の文化祭、夏祭り、餅つき等の行事の参加により、地域交流を図り、顔馴染みの関係を作り、無断外出の時に声を掛けていただくなど、安全で豊かな暮らしを楽しむよう支援しているが、まだ不十分と感じる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人又はご家族の希望されるかかりつけ医を受診していただくようにし、適切な医療が受けられるようにしている。	ホームの母体である病院の医師による定期的な往診で、利用者・家族、そして職員も安心出来る。今冬、ホームにとって初体験という複数の利用者に風邪の症状が見られた時も、大事に至らずにすんだ。日頃の適切な医療支援の賜物だろう。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の訪問看護来所時、異常者の状態を相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、ご本人の状態の情報提供をし、安心して治療が出来るよう、又入院中ご本人の情報収集に努め、早期退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医療関係者等には入居時から話し合い、相談をこまめに行いながら、終末期に向け対応している。しかし、地域の方には特に支援をもらっていない。	ホーム開設以来、1F・2F共に看取りの経験はしてきた。医療連携は問題ないが、ホームに看護師が常駐しない為、その都度良く話し合っ慎重に対処するようにしている。「特養の順番が来てもここを離れたくない。ここで最期の時を迎えたい」という人も居て、職員は可能な限り支援しようとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	4ヶ月ごとの避難訓練の際に合わせ初期対応の訓練を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議時、地域の方々には協力をいただくよう声をかけ避難訓練を行い、消防職員にも参加していただき指導を仰ぎ、利用者が避難できる方法を全職員が、身につけるようにしている。	この街並みに溶け込むような立地のホームであるので、災害対策としては地域と協力して体制を整えるのは必須である。運営推進会議で地元の人達と話し合ったり消防署の指導を受けたりしながら、想定できる災害に対して対応を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	危険を伴うことが予想される時には、過干渉になる事もあるが、誇りやプライバシーを損ねないように小声で声かけする等心掛けています。	「一人ひとりの、ほんの些細な言動をも見逃すことなく注目し書き留めるよう、その人のその時の気持ちを想定して自分の思いも書いてみよう」という日々の実践の蓄積が利用者の理解を深め、人格の尊重につながっていると思う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や、想いを引き出せるような関わりを持ち、記録に残し、職員間でそれを共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思、要望を聞き、無理強いしないよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までのご本人の好みに沿った身だしなみを行うよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、声かけをして、準備、片付けをしていただいている。季節の食材や献立も取り入れるようにしている。	日常的には食事の為の食材は配達してもらっているが、誕生祝い等の特別な献立時や「この食材はちょっと」と思われる時等、買い出しをしている。今日の昼食は皆の目の前でホットプレートで作った焼そば。香ばしい香りが食欲をそそった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量をチェックし、摂取量が減少していれば食事形態を変えるなど対応している。水分もこまめに声かけをし、好みの飲み物で摂取していただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後にうがいを促したり、その人に合わせスポンジブラシ、歯間ブラシにて口腔ケアを心掛けています。口腔ケアについては、歯科医師や歯科衛生士からもアドバイスを得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄間隔を把握し、可能な限りその人に合った対応をしている。又、おむつを使っている方も、全員トイレでの排泄を促している。	各居室にカーテンで仕切られたトイレがあり、自分のトイレという安心感と失禁時等にもプライバシーが守られるといった利点がある。排泄の自立支援は重視しており、利用者の中には改善された例も多い。今はおしめを使用している人も基本的にはトイレに座ってもらうようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動、マッサージを施行したり、牛乳、ヨーグルト等で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いないで、可能な限り希望時間のタイミング、気分の変化に合わせた対応を行なっている。	グループホームも十年の声を聞くところでも介助が大変な状態となる。現在は重度の人を職員2人介助で支援しているが、将来的には機械浴も検討するという。基本的には一日おきに、今の所全員入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前の環境(証明・音など)への配慮や、空腹、口渇への対応をこまめに行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を日々の記録に挟み、職員が共有するようにし、ご家族とも相談し、状況に応じて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出の好きな方、歌、趣味、嗜好品等の楽しみを感じていただけるよう、個々に合わせた気分転換を可能な限り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域との連携は図れていないが、ご家族の協力で外に出かけられている。	昨年度の目標達成計画でも掲げ、日常的な外出のチャンスを増やそうと頑張ってきたが、中々思うように支援できていない。今は特別に厳しい寒さが続いているので無理と思うが、春先にでもなればまたチャンスが見つかるに違いない。	ホームを立ち上げた当初と比較してみると利用者の身体状況も大きく変化してきている。行事としての外出も、個別の外出も、可能な家族には「ホームの生活の中での家族の役割」と謳って協力してもらうのが良いと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は、職員が金額を把握する様にし、所持されていない方には買い物に行かれた際に貸し出しをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて、電話をかけたり、手紙を送るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物、花、飾り等で季節を感じられるように配慮している。又、混乱を招くような物は撤去している。	利用者の入れ替わりは殆んどなく、お互いの居場所や空間の使い方も、もうすっかり定着し落ち着いた感じがしている。職員の目配りや気配りがよく行き届いているので、この広いリビングルームの空間で利用者はゆったり気ままに過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるように椅子を配置したり、気のあった利用者同士でも過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族と相談して、馴染みの物、使い慣れた物を活かして、居心地良く過ごせるように工夫している。	訪問の度にお花を生けてくれたり、居室に嫁さんが専用ノートを用意して職員もその日にあった事をメモする等、それぞれに家族も協力してその人らしい居室にしつらえている。本人の希望の物を持ち込んでいる人も居る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で片づけが出来るようベット等を配置したり、ご本人がわかるように札を貼ったりして対応している。		